

図書館だより

No. 4 4



令和6(2024年)1月発行
宇部市立原小学校 学校図書館

新しい年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

「お正月」の「正」の字には「たさい」という意味のほか「あらたまる」という意味もあります。ですから「正月」とは年があらたまった月、1年の最初の月という意味になります。

新しい年がみなさんにとって良い年でありますように。そして、今年もたくさん本を読んでほしいです。

今年の干支は辰(たつ)

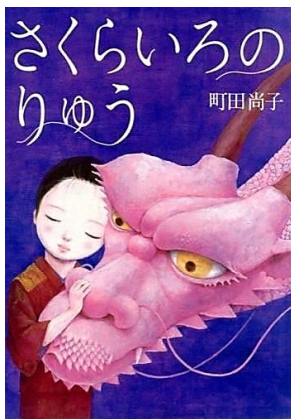
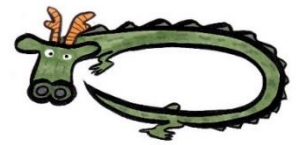


この時期に人気になるのが、干支の動物です。

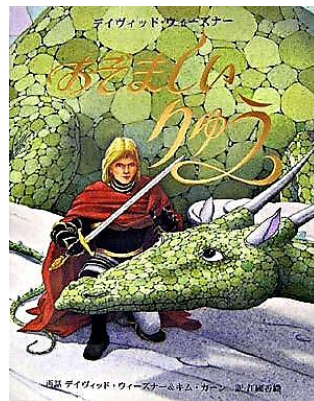
2024年(令和6年)は辰年です。動物にあてはめると竜(龍)ですが、竜は十二支で唯一の想像上の動物なので、わからないことも多いと思います。

辰年には、天高くのぼる竜のように「運気の上昇」「景気が上向く」といった意味が込められているようです。竜は実際には存在していない生き物ですが、本の中にはたくさん登場しています。

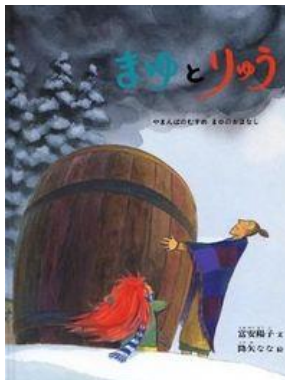
そこで、竜が登場する本をご紹介します。



『さくらいろのりゅう』
町田 尚子(作)
発行:アリス館
むかしむかしひとりのむすめがいました。むすめはいつもひとりぼっちでした。はじめてできたともだちはりゅうでした。りゅうとコイシ(むすめ)のころやさしいはなしです。



『おぞましいりゅう』
デイヴィッド ウィーズナー&キムカーン(再話)
デイヴィッド ウィーズナー(絵)
江国 香織(訳)
発行:BL出版
魔女によって、おぞましいりゅうに変えられてしまったマーガレット姫。兄、リチャードは、姫にかけられた呪いをとくことができるのでしょうか。



『まゆとりゅう』
やまんばのむすめまゆのおはなし
富安 陽子(文)
降矢 なな(絵)
発行:福音館書店
きたのおやまには、やまんばかあさんとまゆが住んでいました。ふたりは竜にのって春一番の雨を降らせます。



『写真で読み解く 故事成語大辞典』
三上英司(監修)
発行:あかね書房
竜の漢字を使った四字熟語が絵や写真つきで説明してあります。また、東洋の竜と西洋の竜(ドラゴン)の違いの説明もあります。

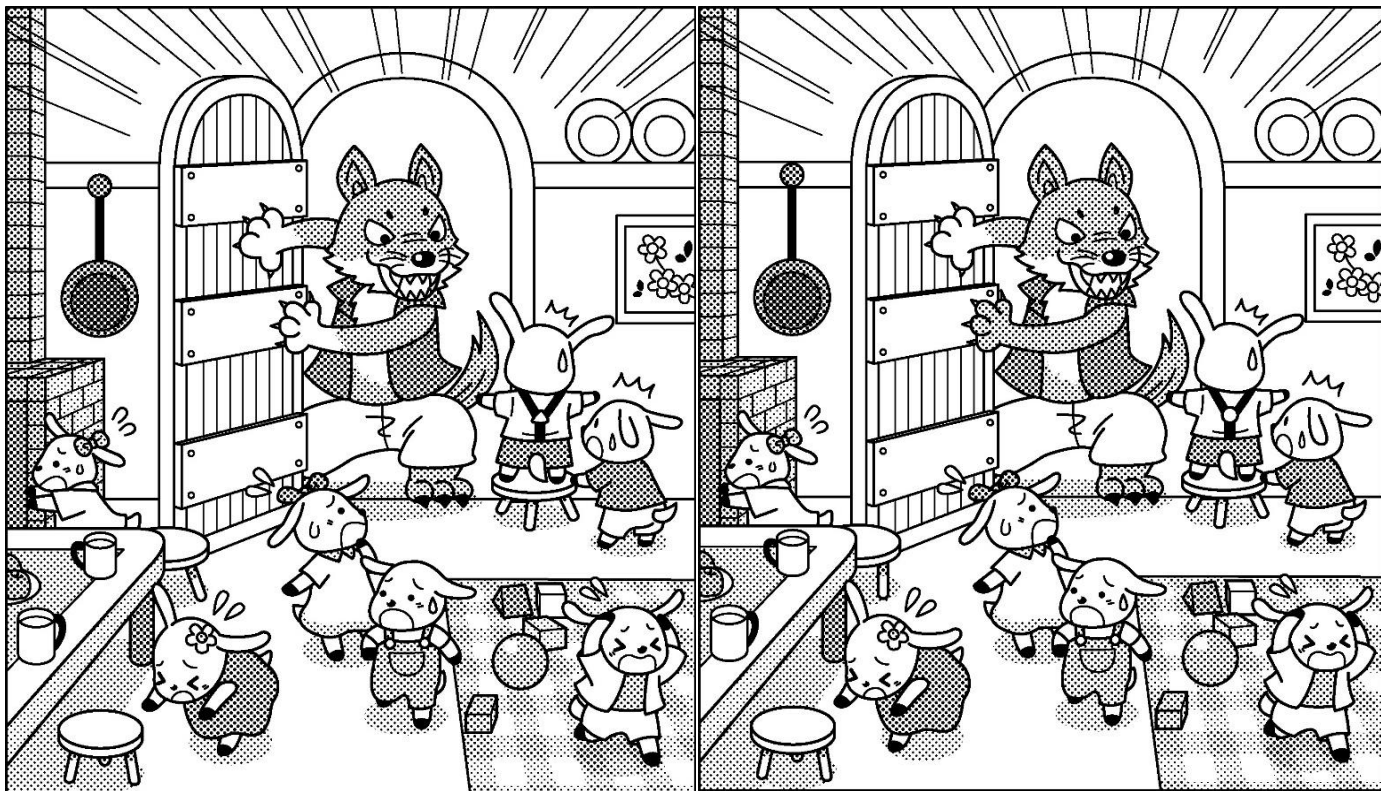
他にも、『エルマーとりゅう』『たつのこたろう』『りゅうのめのなみだ』などたくさんあるのでぜひ図書室で借りてほしいです



お話し まちがい探し

『おおかみと七ひきの子やぎ』

白い粉をぬったおおかみの前足を見て、お母さんが帰ってきたと思った子やぎたちは、とうとう戸を開けてしまいました。下の2枚のイラストには5つのまちがいがあります。いくつ見つけれられるかな？



『おおかみと七ひきの子やぎ』のまちがい探しの答え

- ①おおかみの手 ②サスペンダー ③子やぎのあし ④脚の角度 ⑤フライパンの柄の位置



日本・世界の お話カード

おおかみにねらわれた
子やぎたちの運命は？！

『おおかみと 七ひきの子やぎ』

昔、お母さんやぎと七ひきの子やぎが仲良く暮らしていました。ある日、子やぎたちだけで留守番をしていると、おおかみがお母さんのふりをして家に入ろうとしました。でも声がかがらで、ばれてしまいます。そこでチョークを食べて声をきれいにします

が、やぎとちがう黒い前足を見られてまた失敗。最後に前足に粉をぬって白くすると、とうとう子やぎたちはだまされて食べられてしまいました。やがて帰ってきたお母さんが、一びきだけ助かった末っ子とともにおおかみを探すとひるね中。おなかをはさみで切ると食べられた子やぎたちが出てきたので、代わりに石をつめました。目覚めたおおかみが井戸の水を飲もうとすると、石が重たくて水に落ち、おぼれてしまいました。